TUMSAT-OACIS Repository - Tokyo

University of Marine Science and Technology

(東京海洋大学)

第二部 神鷹丸航海調査報告 第39次航海報告 期間 平成9年8月～平成9年9月 海域 東支那海及び黄海

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-04-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/264

2.1. 中国港湾事情（青島港入港報告、大連港入港報告）
Report of Qingdao port and Dalian port in China

2.1.1. 青島港入港報告

Report of Qingdao port

高須康介　栗田嘉宥　林敏史　萩田隆一　田中忠師
東京水産大学練習船

1.はじめに

東京水産大学練習船神鷹丸は第38次航海（乗船漁業実習Ⅲ）において、食料・清水補給のために中国青島港に入港（平成8年8月26日～8月30日）したので状況を報告する。

1) 入港国：中華人民共和国
2) 位置：36-05N,120-18E（概位）
3) 使用海図：英国版 U.k. No.876
4) 使用時：UTC+8h
5) 代理店：China Ocean Shipping Agent Co. Cables: PENAVICO-Qingdao
6) 本船概要：
GT:935t, Net:280t, Loa:60m, B:10.6m, Df:2.85m, Da:5.50m, Crew:67persoms, 2100p.s.Diesel Engine, Single Screw(CPP), Speed:13.0Kt, Call sign:JFCL

2.港湾地勢

青島港は中国山東省、山東半島の根元に位置している。平均水深約50~60mの浅い黄海に面した港である。市街地及び港は、内陸に約22km広がる入江で多数の川が流入するJiaozhou Wanの南東側にある。この入江の最北部及び最西部は浅水か又は干出泥堆で埋っていてジャンクの錨地に使用されている。また、南風からは保護されているが北東風のときには湾内の海況は悪くなる。青島は中国の外国貿易の主要港であるとともに軍港でもあり、港内には多数の艦船が停泊していた。また、香港・上海等へ定期船も就航しており、中国有数の保養地でもある。(図1参照)

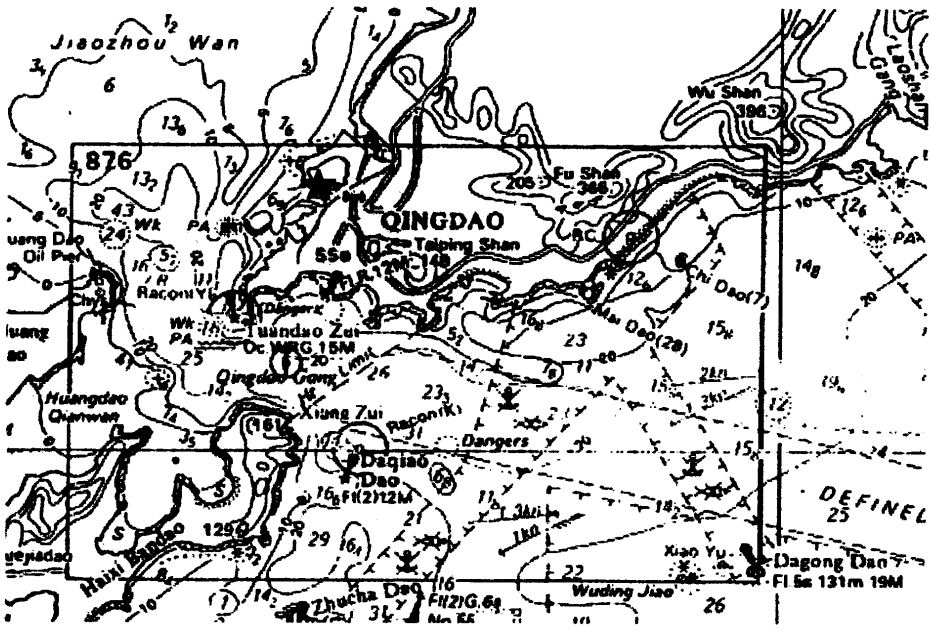


図 1

3.海象気象

錨地では東の風　風力3　入港中は東から南東の風で風力3であった。入港期間中の潮汐は1日2回潮で、最大潮高差は307cmあり舷門のタラップの架け替え作業は毎日行われた。

4.入港

1)連絡事項

PENAVICO-Qingdao より Crew List と Passenger List 及び Harbour Master 宛ての Anchor Instruction と Abeam Chaolian Dao（朝連島）を Qingdao Radio 経由若しくは FAX にて打電するように FAX で依頼があった。Chaolian Dao（朝連島）の ETA は 24 時間前に PENAVICO-Qingdao にテレックスにて連絡し、Chaolian Dao（朝連島）が正横になったときに行う正確な ETA の通報は FAX にて通報した。

2)本船の動静

26th.Aug,1997

0517　Chaolian Dao L't を abeam し正確な ETA を PENAVICO-Qingdao に通報した。

0855　Port of Qingdao Temporary Ancharage(36-00.06N,120-21.38E)に投錨し、（水深 44m、底質は泥）PENAVICO-Qingdao より VHF で連絡をとる。VHF の 16ch は混信が激しく交信することは困難であったので、VHF 14ch(PILOT CONTROL)で直接交信した。その際 PILOT GROUND の ETA を確認され、PILOT GROUND へ進むように指示された。

0925　抜錨

0952　水先人（Mr.Lio Xion Lin）が乗船した。（水先人は強制である）

1035　Port of Qingdao pier No.2-16(図 1 内★印)に着岸した。（タグボートは使用しなかった。）

3)入港手続き等

着岸後、PENAVICO-Qingdao、検疫、辺防検査官（入国管理）、税関、港務監督官の計 9 名が乗船し連合検査を行う。なお、本船入港中は舷門に辺防兵が一名立哨し、本船乗組員、学生の上陸及び帰船の際は船員手帳及び shore pass、パスポートを入念に確認していた。(写真 1)

5.清水・食料の補給

清水はバージから積み込んだが、飲用には不適である。実際に生水は現地の人も飲用していないようである.(写真 2)

食料は、生鮮野菜を中心に補給した。野菜は鮮度も良く発注通り積み込みが行われた。またビールも缶のへこみや箱の損傷もなく特に問題はなかった。



写真 1

6.その他

交通事情

市外では中国語しか通じないことが多く、交通機関（特にタクシー）利用時には用紙に中国語（漢字）で目的地を掲示する必要があった。

病院事情

病院：青島医学院付属医院（総合病院）　Tel：2827681

症状　学生の 1 名が歯肉の痛みのため青島海洋局の博氏の同行を得て診察を受けた。処置として患部を消毒し、化膿止めと痛み止めを渡された。診察料及び薬代は 93 元であった。青島医学院付属医院（総合病院）日本語の少し出来る医師もいたが中国語しか通じないようである。

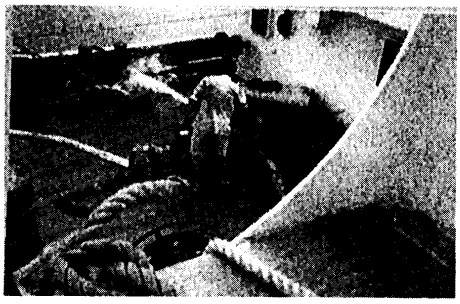


写真 2

参考文献

海上保安庁　1997　pp.325-329　中国・台湾沿岸水路誌

COLIN PIELOW pp.483-485　GUIDE TO PORT ENTRY 1997/1998 EDTION